

価値創造の歩み

三社電機グループは1933年の創業以来、「お客様の要望に応じたモノづくり」を貫き、電力制御とパワー半導体の分野で技術を磨き続けてきました。

映画映写機向け整流器の開発から始まり、その後、電力制御技術と半導体技術を確立。これらを基盤に、省エネルギーや再生可能エネルギー、電動化など新たな社会ニーズに応える製品を生み出し、世界の市場へと展開してきました。長い歴史の中で培った技術と挑戦の精神が、未来の価値創造を支えています。

創業期

1933年、映画映写の安定化に向け整流器を開発し映画文化に貢献。その後、半導体技術に応用し直流電源溶接機を開発。多様な産業ニーズに応え、品質と低価格で高評価を得ました。創業時より「お客様の要望に応じたモノづくり」を理念とし、現在もその精神を受け継ぎながら製品開発を続けています。

本社(1933年)



チョーキングコイル・オートトランス
(1933年)

技術基盤の確立

戦時下の電力事情や産業の特化ニーズに応え、映画館・電気自動車向け整流器を製造。復興期には電力不足に対応する無停電電源装置やセレン整流器を開発。戦後は産業の高度化に対応し、サイリスタや調光装置、トライアックを開発。交流制御や電子機器分野へと展開を広げ、社会課題に応じた技術基盤を確立しました。

映写用タンガール整流器
(1937年)



1971 ~ 1990

1937 ~ 1970

1933 ~ 1936

さらなるグローバル化へ体制を整備

電動化の進展や電力安定化へのニーズの高まりを背景に、当社はプレーナ構造の大容量トランジスタや電気自動車用充電装置、無停電電源装置などを開発し、次世代の電力インフラを支える製品群を拡充してきました。これらの製品は、国内外の展示会への出展や製造委託契約を通じて市場から高く評価され、受注を拡大しました。さらに、アジア地域での事業拡大を目的に「三社電機(広東)有限公司」を設立したほか、欧州にも販売拠点を設置し、販売網の充実を図るなど、グローバルな供給・販売体制を整備し、世界の多様なニーズに応える基盤を築きました。

三社電機(広東)有限公司設立(1994年)



1991 ~ 2010

拠点拡大、パワー半導体の開発特化

産業の省エネルギー化や国際化が進むなか、当社は絶縁モールド型トライアックや高速スイッチング用トランジスタモジュールなど先端技術を活用した製品を開発。業界初(当社調べ)の省エネ型溶接機も実現し、アジア諸国への輸出を拡大。世界的な産業の高度化・効率化という社会課題に対応し、国際市場での存在感を高めました。

岡山工場竣工(1985年)



絶縁型トライアック
(1971年)



太陽光発電用
パワーコンディショナー
(1998年)



新たな時代に向かって

気候変動への対応が世界共通の課題となるなか、再生可能エネルギーの普及と省エネルギーの推進がますます重要性を増しています。当社グループは、太陽光発電向け製品や低損失のSiC MOSFETといった省エネ・高効率技術の開発に取り組むとともに、大容量パワーコンディショナーの性能を評価するための評価システムを開発。さらに、資源エネルギー庁の補助事業である「バーチャルパワープラント(VPP)」にも参画。国内外での積極的な事業展開を通じて、持続可能な社会の実現に向けた挑戦を続けています。

滋賀工場新棟竣工
(2014年)



バーチャルパワープラント
構築実証事業へ参画(2016年)



2011 ~ 2024

SiC
パワーモジュール
(2015年)



1200V耐圧SiC
MOSFETディスクリット(2022年)

